

INFORMATION

最新の情報は生理学会ホームページをご覧ください (URL: <http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/psj/>)



ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム

— 生体機能解明のための国際共同研究 —

A. 研究グラント……「国際共同チーム」への研究費の助成事業

- (1) 2ヶ国以上の研究者，原則として1ヶ国1各，合計2～4名からなる国際共同研究チームを対象とします。ただし，研究代表者は本プログラムの運営支援国の研究者に限られます。期間は三年間，またはそれ未満です。
- (2) プログラム・グラントと若手研究者のみから構成されるチームに限定した若手研究者グラントがあります。
- (3) プログラム・グラントは独立した科学者のチームに与えられ，科学者のキャリアの段階は問いません。科学者のチームは共同作業を通じて新しい研究分野を開発することが望まれます。若手の独立した研究者の参加を奨励します。優先されるのは，新しく革新的な研究プロジェクトであり，その場合，予備的な結果は必ずしも必要とされません。申請者は，各チームメンバーにつき約10万ドルに加え，共同研究に必要な特殊機材のための資金など，チーム全体として一年当たり50万ドルまで申請できます。
- (4) 若手研究者グラントはメンバー全員が独立した研究室を与えられて5年以内の研究者（助教授，講師，助手またはそれに同等の研究者：（ご注意）ポストドクトラルの研究者はメンバーとなることはできません）から成るチームを与えられます。若手研究者グラントの申請は，プログラム・グラン

トへの申請とは別に審査されます。若手研究者グラントのチームには年間標準金額25万ドルが授与されます。

(5) 新規申請の手順：

2001年3月からHFSPは新しく2段階の審査方法を取り入れました。第一段階ではレターオブインテントと呼ばれる簡略版申請書を提出してもらい，HFSPの目標に最も合う申請を選別します。第一段階に合格した申請チームには，その後，本申請書を提出してもらうことにより申請の負担を軽減するようにしました。申請者は各年の3月末までにHFSPのウェブページを通してレターオブインテントを提出していただくこととなります。

(6) 公募（レターオブインテント）締切は，2002年4月3日（必着）

B. フェローシップ……若手研究者が国外で研究を行うための旅費，滞在費等の助成事業

- (1) 運営支援国の研究者が他国の研究機関に行く場合，および非運営支援国の研究者が運営支援国の研究機関に行く場合を対象とします。
- (2) 長期フェローシップと短期フェローシップの制度があります。
- (3) 長期フェローシップ
HFSPの長期フェローシッププログラムでは，博士課程終了者が，外国の優れた研究室で新しい研究分野の訓練を受けられるようにして，才能ある若手科学者たちの地球

規模のネットワークの発展を促進します。長期フェローシップ開始は博士号取得から三年以内でなければなりません。長期フェローシップでは、三年間（あるいはそれ未満）にわたり、35千ドル相当の生活費、年間6千ドルの研究費と旅費、及び千ドルの語学研修費を支給します。支援の3年目（最終年）には本国へ帰ることもでき、状況によっては、2年間の延期の後に“三年目”の支援を受けることもできます。もちろん、3年目を本来の受入れ研究機関で使うこともできます。

・公募締切は、2002年9月1日（必着）

(4) 短期フェローシップ

短期フェローシップは若手の研究者が外国の研究機関で2週間から3ヶ月を過ごし、新しい技術を学んだり新しい共同作業を築くためのものです。長期フェローシップ経験者はその長期フェローシップで始めた研究を完成させるために短期フェローシップを利用することができます。旅費と日当が支払われます。

・申請は随時受け付けています。

注) 運営支援国は、2002年1月現在、カナダ、フランス、ドイツ、イタリア、日本、スイス、

イギリス、アメリカ、EU加盟国（前述のほか、ベルギー、デンマーク、アイルランド、ギリシャ、オランダ、ルクセンブルク、ポルトガル、スペイン、フィンランド、オーストリア、スウェーデン）

〈助成に対する問い合わせ先〉

フランス国ストラスブール市の国際HFSP推進機構（HFSPPO）に直接お問い合わせ下さい。HFSPPOへの問い合わせは、英語にてお願いします（以下に示す電話、Eメールの場合は日本語も可）。

また、ガイドブック・アプリケーションフォームは、インターネット上のホームページより直接ダウンロードして下さい。

宛先 The International Human Frontier Science Program Organization (HFSPPO)

住所 Bureaux Europe, 20 place des Helles, 67080 STRASBOURG CEDEX FRANCE

電話 国際電話接続番号+ 33-3-8821-5125

(日本語可)

FAX 国際電話接続番号+ 33-3-8832-8897

E-mail tshimizu@hfsp.org (日本語可)

ホームページ <http://www.hfsp.org>

(日本国内向関連情報紹介ホームページ：<http://jhfsp.jsf.or.jp>)



第2回（2002年）財団法人材料科学技術振興財団山崎貞一賞

推薦要綱

1. 選考対象分野

- (1) 「材料」(2) 「半導体及び半導体装置」(3) 「計測評価」(4) 「バイオサイエンス・バイオテクノロジー」

2. 選考対象者：詳しくは下記の請求先へお問い合わせ下さるか、URLをご覧ください。

- (1) 法人、受賞候補者の国籍を問わず、日本国内における業績を授賞対象とします。
(2) 論文の発表、特許の取得、方法・技術の開発等を通じて、実用的効果につながる優れた創造的業績をあげた人、もしくは、今後

そのような業績をあげる可能性が高い将来性のある人となります。

尚、候補者は個人・グループであることを問いませんが、グループを推薦される場合は、1グループを1件とみなします。

3. 受賞者：各分野1件それぞれに賞状及び副賞（メダル・賞金300万円）を贈呈します。

4. 締切期日：2002年4月末日必着

5. 推薦書請求先、提出先：

〒157-0067 東京都世田谷区喜多見1-18-6
財団法人 材料科学技術振興財団 山崎貞一賞



THE 5th INTERNATIONAL CONGRESS OF NEUROENDOCRINOLOGY

BRISTOL · UK

31 August-4 September 2002

Website: <http://www.bioscientifica.com/ICN2002.htm>

5TH INTERNATIONAL CONGRESS OF NEUROENDOCRINOLOGY

LIST OF SYMPOSIA TOPICS

Symposium 1: *G Protein-Coupled Receptor Signalling in Neuroendocrine Systems*

Symposium 2: *Circadian and Seasonal Rhythms*

Symposium 3: *Electrophysiology of neuroendocrine neurones*

Symposium 4: *The Somatotropic Axis: Regulation and Dysregulation*

Symposium 5: *Leptin/Orexin Systems and the Control of Food Intake*

Symposium 6: *Psychoneuroendocrinology: basic mechanisms and clinical utility*

Symposium 7: *The Lactotropic Axis*

Symposium 8: *Neuroendocrinology of Development*

Symposium 9: *Cellular and molecular biology of oxytocin and vasopressin*

Symposium 10: *New Strategies for Investigating Neuroendocrine Systems*

Symposium 11: *Early programming of neuroendocrine health*

Symposium 12: *Pineal Regulation and Functions of Melatonin*

Symposium 13: *Hypothalamo-Pituitary-Adrenal Axis and Neuroendocrinology*

of Stress

Symposium 14: *Neuroendocrine-behaviour interactions in reproduction*

Symposium 15: *The Hypothalamo-pituitary-gonadal axis*

Symposium 16: *Regulation of hormone receptor processing and trafficking*

Symposium 17: *Genetics of Neuroendocrine Disease*

Symposium 18: *Genomic and Non-Genomic Actions of Steroids*

Symposium 19: *Neuroimmunoendocrinology*

chairman

Stafford Lightman

University of Bristol

Division of Medicine

Bristol Royal Infirmary

Marlborough Street

Bristol BS2 8HW

United Kingdom

Secretary

Colin Ingram

School of Neurosciences & Psychiatry

University of Newcastle

Leazes Wing

Royal Victoria Infirmary

Newcastle upon Tyne NE1 4LP

United Kingdom

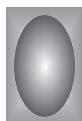
Conference Secretariat

Helen Gregson

BioScientifica Ltd

16 The Courtyard,
Woodlands,
Bradley Stoke
Bristol BS32 4NQ

United Kingdom
Tel +44(0)1454 619347
Fax +44(0)1454 616071
Email: ICN2002@endocrinology.org



第17回 神経組織の成長・再生・移植研究会学術集会

会期：平成14年6月22日（土）

参加費：4,000円 懇親会費：3,000円

会場：後楽園会館

主催：慶應義塾大学医学部脳神経外科 河瀬 斌

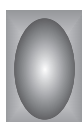
〒112-0004 東京都文京区後楽1-7-22

〒160-8582 東京都新宿区信濃町35

TEL：03-3815-8171

TEL：03-5363-3808 FAX：03-3354-8053

演題締切：平成14年3月31日（日）



痛覚系の可塑性国際シンポジウム（概要）

International Symposium on Plasticity of Pain System

1. 開催期間

平成14年5月9日（木）9時より10日（金）18時まで（2日間）

2. 開催場所

西鉄グランドホテル（福岡市中央区大名2丁目6-60）及び九州大学医学研究院・生理学実験室（福岡市東区馬出3-1-1）

3. シンポジウム（International Symposium on Plasticity of Pain System）の概要

1) シンポジウムの構成

シンポジウム

ポスター発表

実験手技デモンストレーション

Mechanical Acute Dissociation, Focal Stimulation of Single Bouton,

Blind Slice Patch-Clamp Recording, *In Vivo*

Patch-Clamp Recording

2) シンポジウムの日程

		講演会場	ポスター会場	生理学実験室
2002年 5月9日	午前	シンポジウムⅠ（英語）	ポスター発表Ⅰ（英語/日本語）	
	午後	シンポジウムⅡ（英語）	ポスター発表Ⅱ（英語/日本語）	
2002年 5月10日	午前	シンポジウムⅢ（英語）	ポスター発表Ⅲ（英語/日本語）	デモンストレーション
	午後			

3) シンポジウム討議内容

痛みは生体警告系として重要な役割を担っているのですが、時にそれ自体が治療の対象となる事があります。特に、癌の末期やリウマチ、帯状疱疹

疹や神経損傷等にもとづく慢性疼痛は難治性疼痛とも呼ばれ、多くはモルヒネや抗炎症薬に抵抗性であることが分かっております。その発生は、末梢から脊髄および大脳皮質に至る神経系の可塑的

変化を基盤としており、患者のQOLや医療経済の観点からも基礎と臨床の両面から注目される課題となっています。しかも、その可塑的变化の分子基盤は病態ごとに異なっており、その共通性と多様性あるいは時間軸を含めた可塑性の漸進的变化の解明には、学際的研究体制の確立が必須であると考えます。

本国際シンポジウムは、難治性疼痛発生原因と

される末梢から脊髄における感覚回路に於ける可塑的变化について分子生物学、分子形態学、神経生理学、細胞生物学及び行動薬理分野で国際的に活躍している一流の研究者を集め、難治性疼痛の発生機構と治療戦略について研究発表と検討を行い、新規の治療法及び治療薬開発のシードとして研究成果を提示する事を主眼として開催されます。

4) 招待講演者

〈国外〉

	氏名		国
Special Lecture	John N. Wood	: Department of Biology, University College of London	英国
Invited Speaker	Jianguo. G. Gu	: McKnight Brain Institute of The University of Florida	米国
	Michael Kress	: Institute of Physiology and Experimental Pathophysiology, University Erlangen-Nurnberg	ドイツ
	Elsbeth M. McLachlan	: Prince of Wales Medical Research Institute	オーストラリア
	Michael W. Salter	: Programme in Brain and Behavior, Hospital For Sick Children, University of Toronto	カナダ
	Min Zhuo	: Department of Anesthesiology, Washington University Pain Center, Washington University in St. Louis	米国

〈国内〉

氏名	所属
伊藤誠二	関西医科大学医化学講座
井上和秀	国立医薬品食品衛生研究所薬理部
伊吹京秀	京都府立医科大学麻醉学教室
植田弘師	長崎大学薬学部分子薬理学教室
緒方宣邦	広島大学医学部生理学第二講座
表 圭一	札幌医科大学麻醉科
熊澤孝朗	名古屋大学名誉教授
杉本幸彦	京都大学大学院薬学研究科生体情報薬学生体情報制御学
仙波恵美子	和歌山県立医科大学第二解剖学教室
田邊 勤	東京医科歯科大学大学院認知行動医学系高次機能薬理学講座
富永真琴	三重大学医学部生理学第一講座
鍋倉淳一	九州大学大学院医学研究院細胞システム生理学
野口光一	兵庫医科大学解剖学第二講座
水村和枝	名古屋大学環境医学研究所神経性調節分野
村瀬一之	福井大学工学部情報工学科